

登録番号 第 22766 号

## トルネードエース®DF

特長： ●食害を素早く止めるので作物保護効果が高く、チョウ目害虫に高い効果を発揮します。  
●既存の殺虫剤に対し、抵抗性の発達したコナガにも効果があり、天敵への影響が少ない製品です。

トルネードエースはFMC Corporation またはその米国およびその他の国の子会社・関連会社の登録商標です

有効成分	インドキサカルブ (PRTR 法第1種)・・・5.0%	包装	250g×40 500g×20
性状	淡褐色水和性細粒	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

2020年8月12日現在の内容です。

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	インドキサカルブ及びイ ンドキサカルブMPを含 む農薬の総使用回数
キャベツ	コガ アオムシ	1000～ 2000倍	100～300 リットル/10a	収穫7日前 まで	2回以内	散布	2回以内
	ヨトウムシ ハスモンヨトウ タマギンソウハバ ハイマダラノメイト	2000倍					
はくさい	コガ アオムシ	1000～ 2000倍	100～300 リットル/10a	収穫7日前 まで	2回以内	散布	2回以内
	ヨトウムシ ハイマダラノメイト カブラハバチ	2000倍					
だいこん	コガ アオムシ ヨトウムシ ハイマダラノメイト カブラハバチ	2000倍	100～300 リットル/10a	収穫21日前 まで	2回以内	散布	2回以内
ブロッコリー	コガ アオムシ	2000倍	100～300 リットル/10a	収穫14日前 まで	2回以内	散布	2回以内
ねぎ	シイモシヨトウ	1000倍	100～300 リットル/10a	収穫14日前 まで	2回以内	散布	2回以内
いちご	ハスモンヨトウ 材カコガ	2000倍	100～300 リットル/10a	収穫前日 まで	2回以内	散布	2回以内
なす	ハスモンヨトウ 材カコガ テントウムシダマシ類	2000倍	100～300 リットル/10a	収穫前日 まで	2回以内	散布	2回以内

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	インドキサカルブ及びイ ンドキサカルブMPを含 む農薬の総使用回数
トマト	ハスモンヨトウ 材タバコガ	2000 倍	100～300 リットル/10a	収穫前日 まで	2 回以内	散布	2 回以内
ピーマン	材タバコガ	2000 倍	100～300 リットル/10a	収穫前日 まで	2 回以内	散布	2 回以内
レタス	ハスモンヨトウ 材タバコガ ヨウムシ	2000 倍	100～300 リットル/10a	収穫 7 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
非結球レタス	ハスモンヨトウ 材タバコガ ヨウムシ	2000 倍	100～300 リットル/10a	収穫 7 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
えだまめ	ハスモンヨトウ	2000 倍	100～300 リットル/10a	収穫 7 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
だいず	ハスモンヨトウ	2000 倍	100～300 リットル/10a	収穫 7 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
		8～16 倍	800mL/10a			無人航空 機による 散布	
かんしょ	ハスモンヨトウ ナガジロシタバ	2000 倍	100～300 リットル/10a	収穫 7 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
さといも	ハスモンヨトウ	2000 倍	100～300 リットル/10a	収穫 7 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
しょうが	ハスモンヨトウ アヲメガ	2000 倍	100～300 リットル/10a	収穫 7 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
きく	ハスモンヨトウ	2000 倍	100～300 リットル/10a	発生初期	4 回以内	散布	3 回以内
たばこ	タバコアオムシ ヨウムシ	2000 倍	100～180 リットル/10a	収穫 10 日前 まで	1 回	散布	1 回

については有効成分を含む農薬の総使用回数を示すものです。

#### 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 害虫は同一剤の連続使用により抵抗性害虫が出現し、効果の劣った例がある。使用に当っては、関係機関の指導を受けること。また、過度の連用をさけ、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせ使用すること。
- (3) ねぎのシロイチモジヨトウを防除する場合は、食入前の若令幼虫期に散布すること。
- (4) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (5) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - 1) ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
  - 2) 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。
  - 3) 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
  - 4) 散布直後から 1 日後まではミツバチを移動させるか、巣門を閉じること。
- (6) マルハナバチに対して影響を与えるおそれがあるので、散布の際はマルハナバチ及び巣箱にかからないようにすること。また、散布直後から 6 日後まではマルハナバチを移動させるか、巣門を閉じること。
- (7) つまみ菜、間引き菜には使用しないこと。

- (8) 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意事項を守ること。
- 1) 散布は散布機種種の散布基準に従って実施すること。
  - 2) 散布に当っては散布機種種に適合した散布装置を使用すること。
  - 3) 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
- (9) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (10) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

**人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法**-----

- (1) 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- (2) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

**水産動植物に有毒な農薬については、その旨**-----

この登録に係る使用方法では該当がない。

**引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨**-----

通常の使用方法ではその該当がない。

**貯蔵上の注意事項**-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。